

令和 7 年度第 1 回 柏市環境審議会会議録

1 開催日時

令和 7 年 8 月 2 6 日（火）午前 1 0 時から正午まで

2 開催場所

ウェルネス柏 4 階 研修室

3 出席者

(1) 委員

青柳会長，愛知委員，小野委員，川瀬委員，松清委員，伊藤委員，笠原委員，木内委員，染谷委員，富田委員（計 1 0 名）

(2) 事務局

後藤環境部長，村松環境部次長兼廃棄物政策課長，阿部環境政策課長，北村ゼロカーボン推進課長，寶田環境政策課主幹，村上環境政策課主査，山岡環境政策課主任，阿部環境政策課主事，武内環境政策課主事，阿竹廃棄物政策主幹及び棚田廃棄物政策課副主幹（計 1 1 名）

4 議題

次期柏市環境基本計画の骨子案について

5 議事（要旨）

次期柏市環境基本計画の骨子案について

資料 1 に基づき，事務局より説明。

その際に表明された主な意見は，次のとおり。

（以下，委員意見）

（小野委員）

- ・手賀沼の水質について，C O D（化学的酸素要求量）は環境基準超過状態が続いているとのことだが，この問題については，さらにお金をかけて導水事業を進めるのか，それともこれ以上お金をかけても改善できない基本的な条件と受け止めて代替的なことを考えていくのか。

⇒（事務局）

- ・手賀沼の水質は，周辺自治体，国，県，周辺住民，事業者等によ

る環境負荷低減の取組により改善が図られてきた。北千葉導水路ができ、利根川の水を入れることによって手賀沼の水質状況も良くなっているが、現状としては横ばいである。引き続き、市民や事業者の皆様に対して環境負荷低減の取組を呼びかけていきながら、国や流域の市町村等とも協議していく。

（愛知委員）

- ・市域の温室効果ガス排出量は200万t-CO₂程度で、産業構造等の要因はあると思うが、市の人口と比較して排出量が少ないと考える。さらなる削減を目指すとなると、柏市ならではの特徴を押さえた戦略を立てていかなければならない。どのような対策が有効か、どのような事業に補助金を検討するか等の分析を十分に行う必要があると考える。そのような点の分析状況を知りたい。

⇒（事務局）

- ・温室効果ガス排出量については柏市地球温暖化対策計画の方でも分析しており、柏市は業務・家庭部門の割合が大きいといった特徴がある。
- ・温室効果ガスの算定については県単位のを市町村レベルに按分して推計しているため、柏市内の取り組みが直に反映されているとは言い切れないが、大きなウェイトを占める第三次産業や家庭における削減対策を進めていくことが重要であると考えます。特に中小企業向けの補助金や、家庭向けの補助金は、県の財源も活用しながら進めていきたい。

（愛知委員）

- ・環境共創分野の内容にある「新たな価値創造」は、環境に関わるビジネスにもつながるため、重要である。環境への取組は良いことであるが市場経済が含まれないという根本的な問題がある。柏市の発展と環境への取組を両輪で進めていかなければならないと思うため、企業等とも連携をして進めてほしい。
- ・光化学オキシダントについては、大気中で複雑な化学反応が起きていると聞く。単純に一個の項目だけで基準超過の判断はできない点を踏まえ、総合的な環境評価を進めてほしい。越境輸送の

問題もあるため、柏市だけではなく、関東圏全体で進めていかなければならない問題と考える。当分野については知見も深まってきたため、是非お願いしたい。

⇒（事務局）

- ・環境の経済への影響について、政府でもその観点は重要視されている。経済産業省の方では、GXに関する今後の投資の話も出ている。住宅、交通、製造、資源循環等の多分野について多大な投資が行われており、今後のビジネスチャンスはGX、環境部門であることの周知がなされている。また、GX-E T S（自主的な排出量取引制度）があり、大企業等はこれに取り組んでいただきたいところである。GXリーグの参画企業は、企業自らだけでなく、サプライチェーン全体まで波及するような形で、脱炭素の取組を進めることが求められる。市内事業者においては、中小・個人事業主であってもこれをビジネスチャンスと捉えてもらいたい。次期計画においても、脱炭素がゴールではなく、地域経済の活性化や新たなビジネスにつなげるといった側面を打ち出すことが重要と考える。
- ・光化学オキシダントについて、柏市は国道6号及び国道16号が通っており、自動車の排気ガス等が多いため、基準値を達成できない状況が続いている。この問題については有識者の意見も参考にしたいと考えている。

（染谷委員）

- ・今年も酷暑の影響があり雑草が増えている。山林、竹林も人の手が入らず、畑を作る人も減少し、荒れて雑草が生えている。この状況について、緑が保全されているという視点もあるが、市民が見て良い状態だと感じられるのか。人の手を入れて、見た目も美しい環境にしていかなければならないと考える。
- ・環境共創分野について、これからは行政だけでなく、市民全体で地域を守ることを考えていかなければならないと思う。道路の植樹、公園の維持等、経費を削減しながらの環境保全を考えていかなければならない。柏市には事業所が多いが、周辺の景観が良くないため、事業者に訴えかける必要があるのではないかと。市民や事業者等、全ての主体が興味を持って参加することが必要ではな

いかと思う。

⇒（事務局）

- ・谷津田や里山は柏市の貴重な自然資源である。谷津田は，所有者に適切な管理をお願いすることで保全を図っているが，農業の担い手不足により，年々管理が困難になっている。谷津の保全については今後見直しが必要と考えている。市民向けの自然体験講座等により，豊かな自然に触れてもらう機会を設ける等，谷津田の活用方法を検討したいと考える。緑の保全については，柏市緑の基本計画において，北部，中央，南部，沼南の各地域で保全すべき緑のエリアを示している。保全においては，行政だけでなく，市民や市民活動団体，事業者等，横の連携を図りながら管理が行われるような仕組みづくりが必要であると認識している。

（川瀬委員）

- ・目指す環境像に「環境にくらしと経済が調和した」という表現があるが，ここで指す「環境」とはどのようなものか。環境という言葉には様々な捉え方がある。「緑豊かな環境」や「心地よい環境」等の言葉にすれば，将来像が具体的に想像できると考える。まずベースに環境があり，そこに暮らしと経済が育まれていかなければならないと思うため，「暮らしと経済が豊かな環境のもとで育まれ」等の表現が良いと思う。
- ・基本方針について，「リーディングコアシティ」は柏市第六次総合計画における造語である。一般の方が意味をイメージしやすいのか疑問である。
- ・環境共創の中で，ビジネスの育成は大切である。環境に関する活動は慈善活動的な考えがあるためか、利益を得て収入にする事が難しい。そのため若者世代も取り組みにくく，持続が難しい。また，企業や学校などが環境学習や保全活動等を行いたいときに利用できるようなマッチングシステムの構築は重要である。マッチングシステムの受け入れ先や相談窓口等の整備を検討してほしい。

⇒（事務局）

- ・環境の定義は幅広いが，市民や事業者がイメージする「環境」は，自然環境，生活環境，資源循環等のくらしや事業活動に身近

なものと考える。目指す環境像の示す「環境」については、いただいた意見も踏まえて改めて検討したい。

- ・「リーディングコアシティ」は柏市独自の造語のため、次期計画においては、注釈等により分かりやすく意味を示していく必要があると考える。ウェルビーイングやネイチャーポジティブ等の専門用語も同様とする。
- ・今後は、環境の向上を図りながら社会活動を活性化していくことが必要であると考え。経済産業部は、柏市産業振興戦略ビジョンを策定しており、その施策として、ゼロカーボンに向けた技術開発・事業化支援や、SDGsに関する取組の促進等を設定している。今後も、持続可能な社会と事業活動の両立ができるよう示していきたいと考える。
- ・マッチングシステムについては、調査及び検討が必要である。先進自治体の優良事例を踏まえながら、市民活動団体との連携も視野に入れ、プラットフォームの構築に向けたご相談をさせていただきたい。

(松清委員)

- ・手賀沼の水質問題について、現在は北千葉導水路により利根川の水を入れているため水質を維持できているが、利根川の水質以上に改善されることはない。そのような情報を知らない市民は多い。情報をどのように、どこまで発信していくかがポイントになる。情報発信の要素は環境共創分野に含まれているが、もう少し強く打ちだしても良いと思う。行政からの情報発信と、市民側の発信の両方が必要であると考え。
- ・現在の気候状況に関連して、今年は特に草刈りが大変であった。ボランティアを募集しても、手間を楽しめる人がどのくらいいるのか。一時的な体験であれば楽しめるかもしれないが、土地の所有者等、管理を続けなければならない方には大きな負担である。緑は残していきたいが、ただ残っていればいいわけでもない。草を刈ると森の風通しが良くなり、快適に過ごすこともできる。そのような、環境保全活動による住環境への影響や、活動の意義等について、団体からの発信だけではなく、客観的な事実に基づいた行政側からの情報発信も必要であるため、力を入れてもらえれ

ばと思う。

⇒（事務局）

- ・これまで柏市の環境行政における情報発信が不足していた反省を踏まえ、次期計画においては、情報発信の強化が重要であるという認識を持っている。柏市の環境データや、市民、事業者、行政の活動、環境教育、各種イベントの状況等を、市民や事業者に対してさらに発信したいと考える。広報かしわ、ホームページ、SNS等の活用を検討している。
- ・森林の保全をはじめ、担い手も不足している中、どこの緑地を重点的に保全すべきか、市民や関係者と相談してポイントを定めていく必要があると考えている。また、森林環境譲与税の財源をどのように活用できるか、所管の経済産業部と相談していきたい。

（青柳会長）

- ・目指す環境像の「環境にくらしと経済が調和した」について、「経済」という言葉が入っているのはチャレンジングである。ただ、その要素が内容に十分に反映されているとは言えない。基本方針1の詳細・主な根拠においても「地球温暖化対策はすべての環境分野に影響を与える」と、自分たちの活動を環境分野に限定してしまっている。「地球温暖化対策はすべての分野に影響を与える。柏市環境基本計画は、それを環境の側面から推進する」等の表現とする方が、環境政策の現状には沿っている。全体を通して、「環境分野」という言葉を使うことが良いことなのか、議論の余地があると考えている。

⇒（事務局）

- ・骨子案については、いただいたご意見を踏まえて修正を検討したい。なお、資料1の12ページに、環境分野だけではなく、他分野との連携を密にして、相互に良い影響を与えるイメージ図を示している。環境分野同士の縦のつながりに加え、横の連携として、防災・減災、観光、産業振興、交通、健康・福祉、地域間交流等を記載している。このように他分野と共同して柏の良い環境を作り上げていくことができる計画であることを示したいと考えているため、表現も含めて、改善を検討したい。
- ・ゼロカーボンシティ推進課においては、環境を足がかりに全ての

まちづくりに貢献していくことがミッションであると考えている。第六次柏市総合計画において、気候変動対策が重点テーマに設定されている。そこを中心として、防災・減災、学び、健康、社会参加、エリアごとの特徴を活かした地域経済・産業の振興等、全てにゼロカーボンシティ推進課が関わるものと考えている。取組を具体化していく際には、全庁的な取り組みとして進めていきたい。

(木内委員)

- ・市民・事業者参加について、現時点で具体的な構想はあるのか。
- ・森林を維持するには労力や資金が必要である。森林保全が負荷ではなくインセンティブとなるような取組や、森林に人が訪れお金を落としてもらう仕組み等、多くの人々が柏を訪れるきっかけになるような仕組みは検討しているのか。

⇒ (事務局)

- ・事業者との連携については、商工会議所や関係団体と相談させていただく内容が多いが、一つの案として、柏市環境保全協議会の中に、ゼロカーボンやサーキュラーエコノミーの取組に賛同する事業者に参加いただくプラットフォームの構築を検討している。
- ・経済性のある環境保全について、現在、手賀沼や道の駅等を市民や事業者が集まれる場所として活用している。森林保全についても、地権者の同意を得ながら、協力意志のある団体とのマッチングや、活動を通じた自然とのふれあいの推進を進めつつ、観光拠点化等の取組を検討する必要があると認識している。
- ・ゼロカーボンシティの推進にあたっては3つの地産地消がテーマとなる。1つ目はエネルギーの地産地消である。柏市は電力だけでもマイナス77億円となっており、市内で電力を創り循環させることが経済の好循環と脱炭素の推進に繋がる。新電力会社の設立等、取組を具体的に進めていきたい。また、市民や事業者の協力が必要であるため、設備投資に関する補助金を充実させていきたい。2つ目は食の地産地消である。地域のものを地域で食べることが、環境保全や脱炭素にも大きく貢献する。3つめは地域資源の地産地消である。これには観光も含まれる。今までも手賀沼を活かした観光、収穫体験や農業体験等の取組が行われている。マイクロツーリズムを進めることで、市民が柏市を好きになるき

っかけを作りながら，市内での経済循環の促進を図ることができる。他の部局や他事業者との連携により進めていくことを考えている。

（伊藤委員）

- ・太陽光パネルには有害物質が含まれ，漏れた場合その土地が利用不可能になるといった問題がある。太陽光パネルの設置は，現在ある事業用地内に限定する等，森林を伐採しない方向性をとれば，環境保全との兼ね合いが図られると思う。
- ・環境教育について，工業団地でゴミ清掃や草木の清掃等を実施しているが，参加者が非常に少ない。生産系の事業者は，排出者の意識があるのか比較的参加が多いが，それ以外の業種は少ない。子どもたちへの環境教育とあわせて，大人たちへの教育にも取り組むことで，柏市はよりきれいになると考える。

⇒（事務局）

- ・太陽光パネルのマイナス点は承知している。市としては，既存の太陽光パネルだけでなく，ペロブスカイト太陽電池等の新規技術の活用や，水素エネルギーを活用している市内事業者との連携，学識者と連携した実証実験等も進めていければと思う。

（小野委員）

- ・「リーディングコアシティ」の意味を教えてほしい。

⇒（事務局）

- ・「リーディングコアシティ」は，柏市が，千葉県北西部エリアで先導していく自治体のイメージで用いている。手賀沼等の自然や，スポーツ，音楽等，柏市が持つ特性にさらに磨きをかけて市内外に発信しつつ，人や企業情報が集まり，共創して社会課題の解決に取り組み，未来を見据えたまちづくり政策を実行することで，柏市に行きたい，柏市に住んでみたい，柏市で活動してみたい等の気持ちを持ってもらえる先進的なまちのイメージである。様々な分野で先導的な取組をしていく中で，環境部門においても良い取組をして，市内外に「環境のまち・柏」を示すことを目指し，基本方針にこの語句を含めている。

- 6 傍聴者
0 名
- 7 配付資料
 - (1) 次第
 - (2) 委員名簿
 - (3) 席次表
 - (4) 資料 1 次期柏市環境基本計画に関する骨子案について
 - (5) 資料 2 環境審議会用 基礎資料（概要版）
 - (6) 資料 3 環境審議会用 基礎資料（詳細版）